

2022年度事業計画

2022年度に予定している事業は、下記のとおりである。

1. 所蔵資料等の調査研究とその成果の発表
2. 資料の収集・整理・保管、修理保存
3. 資料の公開・展示等
4. 一般および青少年を対象とした教育普及活動
5. 美術館の運営

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関連事業

1. 三井に関する歴史研究の拠点としての役割を果たすべく、研究員各自の調査研究（*a）を一層深め、外部研究者の参加も得て各種研究会や史料輪読会などを定期的に行き、それらの成果を『三井文庫論叢』（第56号）、外部の論集・研究雑誌、学会・外部研究会などで発表する。
* a 三井を中心とする江戸時代における商業史・金融史・制度史の研究、明治以降の経済史・経営史・政治外交史の研究など。
2. 三井関係資料（*b）の調査・収集を進める。
* b 近世では、三井一族・奉公人関係、取引先関係、縁故諸施設など。近代では、三井銀行関係、旧三井物産関係、三井鉱山関係、関係会社社史編纂資料、個人所蔵資料など。
3. 資料保存環境の整備（*c）を進める。
* c 書庫環境の調査点検、所蔵資料の点検と保存方法の改善。
4. 所蔵未整理資料の整理と公開準備（*d）を進める。
* d 旧三井物産資料、三井鉱山資料など。
なお、2022年中に三井鉱山資料の追加公開を予定している。
5. デジタル・アーカイブ構築に向けた準備作業（所蔵資料のデジタル画像作成（*e）、所蔵資料等のオンライン公開体制の整備（*f））を進める。
* e 三井不動産株式会社創立80周年記念事業による寄附を受けての「三井大元方勘定目録」「三井大元方寄会帳」「三井合名会社資料」「三井総元方資料」「三井本社資料」のスキヤニング。その他、「旧三井物産資料」「三井鉱山資料」等のスキヤニングなど。
* f 目録検索システム・資料画像公開システムの準備、三井文庫刊行物の公開など。
6. 所蔵資料の中から一般的に史料価値の高いものを「三井文庫史料叢書」として翻刻刊行する（*g）。
* g 2022年度は『大坂両替店「聞書」第二巻』の刊行を予定している。
7. 社会経済史研究の共通基盤となるデータベース（*h）の作成・公開の準備を進める。
* h 三井合名会社理事会議案データベース、三池鉱業所往復文書データベースなど。
8. 戦後の三井関連事業などについてのヒアリングを行う。
9. 三井文庫WEBサイト（ホームページ）の充実をはかる。
10. 歴史資料の収集・保存・公開・研究に携わる国内外の諸機関・専門家との経験交流、

情報共有、共同研究などに取り組む。

11. 三井グループ各社の資料保存や歴史研修などの取り組みに協力する。
12. 研究成果の社会還元ならびに資料保存への関心喚起のため講演会など一般向けの普及広報活動に取り組む。

II. 文化史・美術館関連事業

● 文化史関係（資料の保管・整理・研究事業）

1. 美術館（三井記念美術館）の収蔵庫、三井文庫別館の収蔵庫・展示室改造の保管室、三井倉庫（辰巳）、以上三か所に分散保管する収蔵品につき、保管場所の固定化と、管理台帳への記載、管理要項の作成、定期的な実査の実施などについて、作業を進める。
美術品の移送にあたっては、美術品専門の運送業者に依頼し、細心の注意を払う。なお、修理・定期的手入れを必要とする資料（* i）については、専門業者や専門家に依頼し、修復・保全を図る。

* i 掛軸、巻物、漆工品、刀剣。

2. 美術館および三井文庫別館の収蔵庫・展示室内の環境を適切に管理し、保管に万全を期す。特に美術館の収蔵庫・展示室に関しては、温湿度・虫害・カビ等の管理を徹底し、空調設備の微調整を行う。また、収蔵庫内の有毒ガスなどの測定を定期的に行う。さらに、美術館収蔵庫・展示室の燻煙による害虫の駆除、美術館収蔵品・三井文庫別館収蔵庫・展示室のガス燻蒸による、害虫およびカビの駆除なども状況に応じて実施する。
3. 昨年9月1日より本年4月下旬までの期間、空調機械設備と美術館内の照明のLED化など全面的改修工事を行った。4月29日以降の展覧会開催にあたり、文化庁の指導を仰ぎながら、収蔵庫および展示室・ケース内等の空気環境適正化に努める。
4. 館蔵資料およびそれに関する資料、展覧会に関連するテーマについて、必要に応じて外部研究者の協力を仰ぎながら、調査研究を進める。また、並行して研究員各自の調査研究（* j）を一層進める。

* j 日本文化史、茶道美術史、陶磁史、絵画史、書跡史、漆工史、仏教美術史、神仏習合美術史等。

5. 2021年度、三井文庫本館と三井記念美術館に対し、三井不動産株式会社創立80周年の記念事業としての寄附があり、美術館ではそのうち約7割を充当し、記念事業として「三井の文化に関わる社会貢献－過去から未来へ－」のテーマのもとに、収蔵品のデータベース化、ホームページでの映像配信、三井の文化と社会貢献に関する出版、図書の保管施設および松の茶屋内記念書庫の増設などを実施する。なお、この事業は年間予算とは別会計とし、5年以内を目途に実施する。
6. 『三井美術文化史論集』第16号を発行する。
7. 2021年度に再度申請した刀剣6点の修理を実施する。
8. 学会・大学・研究機関などの研究会等については、新型コロナウイルス感染拡大状況や社会情勢を見ながら受け入れを検討する。
9. 他の美術館・博物館の展覧会等に対し、資料の出品協力を行い、学術文化の振興に寄与する。

● 三井記念美術館（美術館活動事業）

1. 2021年度に引き続き、改修工事のため、2022年4月28日(木)まで休館期間とする。
2. 2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の発生ならびに拡大防止を最重要課題と位置付け、来館者と職員・スタッフの生命・安全・安心を確保しつつ美術館の使命・職務を遂行する。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために行った以下の対策については、感染拡大状況や社会情勢を見ながら継続もしくは緩和を検討する。
 - ①開館時間の短縮（11：00～16：00、最終入館15：30）
 - ②ナイトミュージアムの中止
 - ③団体来館の受け入れ中止
 - ④音声ガイドの貸出中止
 - ⑤来館者に対するマスク着用、入館時の検温、手指の消毒、ソーシャルディスタンスを保った鑑賞のお願い
 - ⑥展示室が密になることを避けるため、必要であれば在館者数の上限を設定
 - ⑦職員のマスク着用、フェイスガード着用、手袋着用、毎朝の検温
3. 2022年度は、三井記念美術館の展示室において、次の5期に分けて展覧会を開催する。（年間開館日数244日間）
 - ①『リニューアルオープンⅠ 絵のある陶磁器 ～仁清・乾山・永楽と東洋陶磁～』
2022年4月29日(金・祝)～6月26日(日) 開館日数：52日間
 - ②『リニューアルオープンⅡ 茶の湯の陶磁器 ～“景色”を愛でる～』
2022年7月9日(土)～9月19日(月・祝) 開館日数：64日間
 - ③『特別展 ^{だいまきえ}大蒔絵展 ^{うるし} -漆と金の千年物語』
2022年10月1日(土)～11月13日(日) 開館日数：43日間
 - ④『国宝 雪松図と吉祥づくし』
2022年12月1日(木)～2023年1月28日(土) 開催日数：44日間
 - ⑤『三井家のおひなさま 特集展示 近年の寄贈品 -絵画・書跡・五月人形など-』
2023年2月11日(土・祝)～3月31日(金) 開館日数：41日間*展覧会終了は4月2日(日)

（注）展覧会名、開催期間等一部変更が生じる場合あり。
4. 美術品の貸出・借用にあたっては、管理・手続きを厳格に行い、事故防止の徹底に努める。
5. 上記展覧会のうち、③の展覧会では展覧会図録を発行する。
6. 展覧会毎に青少年向けワークシートを作成・配布する。
7. 美術館教育に関わる下記事業については、感染拡大状況や社会情勢を見ながら実施を検討する。
 - ・一般および青少年を対象とした、講演会、講座、鑑賞会、ワークショップ
 - ・教育機関、教職員を対象とした講座、研修会、研究会、鑑賞会の受け入れ
 - ・大学生の見学、研修の受け入れ
 - ・オンラインプログラム（2022年度より新たに実施予定）
8. 美術館の運営およびPR面において、以下のとおり取り組む。なお、各事業については、

新型コロナウイルス感染拡大状況や社会情勢の推移に応じて、その都度実施の有無を検討していくこととする。

- (1) 各展覧会の開催に合わせて記者説明会、内覧会、特別鑑賞会を実施する。
- (2) 東京駅周辺の5美術館（アーティゾン美術館、出光美術館、三菱一号館美術館、東京ステーションギャラリー、当館）で連携して下記事業を行う。
 - ・「東京駅周辺美術館共通券2023」の発行
 - ・「東京駅周辺美術館MAP（2022年4月～9月版／10月～2023年3月版）」発行
 - ・「EDO TOKYO NIPPONアートフェス2022」の実施
 - ・「学生無料ウィーク」の実施なお、各事業については、各館の展覧会開催状況も含め、5館で運営している公式サイト「5museums.tokyo」にて都度情報開示を行う。
- (3) 改修工事休館期間の終了後、当館の普及広報活動の一環として例年参加している「東京・ミュージアムぐるっとパス2022」へ参加する。
- (4) 東京初のインバウンド向け文化施設パスポート「THE TOKYO PASS」へ参加する。
- (5) 一定の集客強化対策として、有力会員組織との連携関係を検討する。
- (6) 来館者のリピーター化の促進および新しい来館者層を開拓するため、ミュージアムショップにおいては、テーマ性や季節感のある演出を心掛けるとともに、オリジナルグッズの開発を進める。
- (7) リピーター層確保のため「ミュージアムパスポート2022」を発行する。
- (8) 顧客満足度の高いサービスの提供に役立てるために実施してきた来館者アンケートを再開する。
- (9) 近隣の商業施設・ホテル・美術館などのほか、中央区主催のイベントへの参加や区民へのレクチャー等、日本橋地区の活性化に寄与するための事業へ参加する。
- (10) 日本橋室町地区の商業集積度の向上に合わせ、外国人来館者等への対応を進める。
- (11) 三井グループ各社へのインナーキャンペーン強化のために例年行っている、「賛助会社社員・家族特別招待会」、「賛助会社部門長特別招待会」、「賛助会社社員招待会」、「賛助会社女性社員招待会」の開催、また各社の新入社員研修等の受け入れを行う。
- (12) 賛助会社のVIPご招待など、美術館閉館後の貸切り特別サービスについて、受け入れを行う。
- (13) 来館者の利便性および外国からのお客様のニーズに応え2021年に導入したキャッシュレス決済について、これまでの実績や改善点をふまえた機器見直しとPOSシステム導入により、更なる有効化を進める。
- (14) 当館公式ホームページについて全体改修を行い、来館者目線の更なるコンテンツの充実化、セキュリティ強化、レスポンスデザイン化を図る。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため募集がなかったが、今年度は箱根町と協議の上、同町が見学者を募集する「文化財探訪会」を通じて公開するとともに、建

築、茶道等関連研究者等の見学会や外部講師を招いた研究会を実施する。

修繕工事については、残月の間の茅葺屋根の葺き替え、柱・壁・床のゆがみ調整、外壁の修繕等の工事を中心に行う予定である。

<収益事業>

I. 不動産賃貸業

三井花桐ビルは、満室となっており、2021年度並みの収入を確保する見込みである。2022年度の修繕工事は、防災盤更新工事・空調室内機組込型加湿器メンテナンス工事、建物診断等を実施する予定。